



介護と
予防

パーキンソン病と 福祉用具の選定ポイント①

今回より、病気や症状に対する福祉用具の選定ポイントをご紹介します。

まずはパーキンソン病から。

パーキンソン病は脳内でドーパミンという物質が減るために、脳から体への指令がうまく伝わらなくなる進行性の病気です。

振戦、筋固縮(筋強剛)、無動、姿勢反射障害などが4大症状としてよく知られています。

① 振戦

手足が規則的に震える



② 筋固縮(筋強剛)

関節を動かすと
抵抗感を示す



③ 無動

動きが鈍くなり一つの
動作開始に時間がかかる



④ 姿勢反射障害

転倒防止が困難



しかし症状はこれ以外にもさまざまあり、また病状の進行度によって症状の程度も変わってきます。そのため今だけでなく今後も見据え、個別に対応してゆく必要があります。

まず、パーキンソン病では次のような特徴がみられがちです。



不安・不快・緊張
などの状態だと
体が動きづらくなる



安心・快適・リラックス
などの状態だと
体が動きやすくなる

例えば

初対面のヘルパーが話しかけても無表情で一言も発さず、家族など親しい人を前にすると表情が和み、話せるようになることも。わがままだと誤解されることもあるので、しっかりと背景を理解しましょう。



お家の環境を整えましょう ➡️ 排泄環境の整え方

通常のトイレの場合

引き戸、外開き戸

方向転換が苦手、かつふらつくとそのまま転びやすいです。外開き戸の場合は扉に近づきすぎると後ずさりして転びやすくなるので引き戸をおすすめします。
引き戸にできない場合は、後ずさりしないで開けられる位置の目印を床につけましょう。



目印があると
体が動きやすくなります。

暖房便座

冷たいと不快感から
体が動きづらくなります。



ほかほか~

段差の解消

すり足になりがちで、段差があると
転倒の危険性があります。



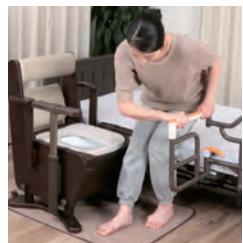
ポータブルトイレの場合

ポータブルトイレ

夜間など、トイレまで歩く際に転倒リスク
が高い場合はポータブルトイレの併用を検討しましょう。

消臭・防水シート

すり足がちなので、使用する場合は**ピンなどで止めて**足を引っかけて転倒しないようにしましょう。



ベッド用具グリップ・据置手すり

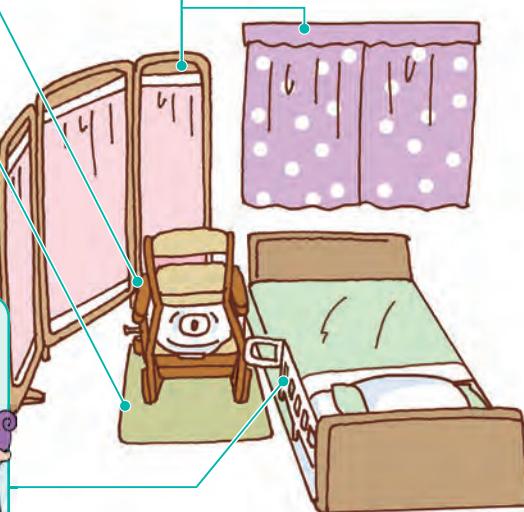
据置手すりを併用すると、移乗時に安心感があつて体が動きやすくなることもあります。



アームサポート手すり
メンティだと排泄後の姿勢保持も、安心です。

間仕切り・カーテン

尊厳・プライバシーへの配慮上必要なのは当然ですが、人から見られているなどの**緊張感、不快感から体が動きにくくなること**への配慮からも必要です。



次回は ➡️ パーキンソン病と福祉用具の選定ポイント② 入浴編です。



詳細は
「介護・生活快適商品カタログ2018-2019」
「介護・生活快適商品手すり・移動支援カタログ」
をご覧ください。

上記品揃え以外も取り揃えております。

ご用命は

パナソニック エイジフリー株式会社 ケアプロダクツ事業部

〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048

<http://sumai.panasonic.jp/agefree/products>

法人のお客様 製品・在庫に関するお問合せ TEL06-6908-8141
個人のお客様 製品に関するお問合せ

0120-365887 受付 | 9:00~12:00/13:00~17:00
時間 | (土、日、祝日休み)

このチラシの記載内容は2019年4月現在のものです。